# 平成24年度 決算説明書/事務事業評価シート

課 名 まちづくり推進課

<b>子</b> 質	款	項	目	決算書	ŧ
J' <del>Ji</del>	2	1	10	124	頁

	目	名	
交流促進費			

事業名称	
交流促進事業	

## 1. 概要

目的	市民生活の潤いと文化、産業の振興	対象	市民
	○国際交流促進事業・・・ ・(韓国)・・・益山市との相互訪問事業として益山市ソドン祭りに参加、機張郡との相互訪問事業とし 行った。	て機張	表の表別である。
事業概要	〇地域間交流促進事業・・・ ・(台東区)・・・相互の交流として、桜まつりへの参加、隅田川花火大会への参加、豊後市役所開庁部の受入を行った。 ・(雪舟サミット)・・・雪舟を通じた関係市町村との相互交流として、島根県益田市60周年記念に参加		問、台東区新人議員研修

臨/経	細事業名称	事業内容(主な経費等)		予算現額	決算額	<del>上</del> 算額 財源内訳				
THIS AT			( )		(千円)	国・県支出金	市債	その他	一般	評価
経常	国際交流促進事業	国際交流員1名配置	報酬	9,073	7,300				7,300	2
経常	地域間交流促進事業	台東区交流 雪舟サミット	旅費	679	365				365	2
		計		9,752	7,665	0	0	0	7,665	

## 2. 指標設定

	1100000											
Ī	成	指標名	Ż 2	交流事業参加人員	目	標 H27				指標の設定理由		
	果	ויתויםנ		<b>文</b> 加于宋罗加八良				総合計画/後期基本計画において、基本施策(5-1-3)の重点施策に関連して				
	指 標	数值		350人	年度	'		いるため				
ŀ			<del></del>		12	<u> </u>					_	
	活 動	指標	а	国際交流事業参加人	員	b	地域間:	交流事業参加人員	С		d	
	指											
	標	数值	目標	300人	1	目標		50人	目標		目標	
	1275	I I										

## 3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名 単位 H		H 2	H 2 2		H 2 3		H 2 4	
交流事業参加人員	ı	505.0	人	220.0	人	560.0	人	
<b>又加尹未罗加八</b> 貝		144.3	%	62.8	%	160.0	%	

#### 4. 課題と対応

課題						
交流事業に対する市民参加の広がりを推進する必要性がある						
対応(改善点等)						
交流事業について、広報紙、CATV等により広く市民に周知し、新たな会員の増加に努める。						

活動指標名		単位	H 2 2		H 2 3		H 2 4	
а	国際交流事	人	500	人	200	人	540	人
а	業参加人員		166.7	%	66.7	%	153.0	%
b	地域間交流 事業参加人	人	5	人	20	人	20	人
D	争未参加人 員	^	10.0	%	40.0	%	40.0	%
,			_		_		_	
С			_		_		_	
d			_		_		_	
a			_		_		_	

## 5. 事業費・・・H22~H24 (決算額) 、H25 (予算現額)

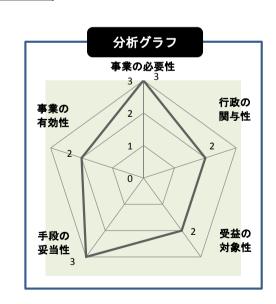
決 算 額 (千円)		H22	H23	H24	H25
	· 异 ((十一)	8,801	12,664	7,665	10,476
	うち経常経費	8,801	12,664	7,665	10,476
	国 費				
財	県 費				
源	市債				
内	その他				
訳	一般財源	8,801	12,664	7,665	10,476
	うち経常	8,801	12,664	7,665	10,476
事業費に係る人件費		3,066	3,010	2,576	2,615
事	<b>事業費に係る人役</b>	0.70	0.70	0.60	0.60

### 6. H26年度予算の方向性

0. 112 0 干皮;并(	· > > 3   1· 3   1.						
方向性							
減額							
理由							
事業内容の検討を行う							

## 7. 担当課による分析

	着眼点	分析	分析根拠
① 事業の 必要性	必要性の再確認	3	これまでの経緯実績等を踏まえると 従来通り事業の継続を要する
② 行政の 関与性	責任領域の精査	2	国際交流協会など民間を母体とする組織 が育ちつつある。行政と民間の分担を図 り、支援をしていく
③ 受益の 対象性	事業対象の確認	2	国際交流の機会は、広く市民に公募を行っている
④ 手段の 妥当性	活動指標の分析	3	目的達成のために適切な手段である
⑤ 事業の 有効性	成果指標の判断	2	継続的な交流事業を実施している が、国際交流協会員の増加や新たな 動きなど広がりを期待する。



## 8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
	行政と民間との機能分担を適正に行い、市民協働参加による、交流を充 実していくこと。